

今年3月に本校を卒業した、濱本菜緒さんと、桜井えみさんが、中学3年生時に取り組んだ「福中発！未来会議」の感想が、西日本新聞「子どもタイムズ」に掲載されました。福中発！未来会議とは、十年後に住みたい福津にするために、私たちの手でできることは何か？について考えを深め、熟議し、発信する現高校2年生の代からスタートしたプロジェクトです。今年度も3年生が取り組む予定になっています。

私が住んでいる福岡県福津市は、2018年の住みよさランキングで九州圏1位をとった。しかし、ボランティアの参加者数が少なく、自然を残すことが課題となっている。

美しい自然を残すため 濱本 菜緒=16



(福岡県福津市・高校生)

地域のボランティアに参加した時、高齢者が多く、若い人が少ないなど感じた。ボランティアの参加者数を増やすために、市内の学校と地域、市役所などが連携して出前授業などを通し、自然の大切さ、豊かな自然を後世に残す大切さを知ってもらう必要がある。福津の美しい自然を残すために私たちができることは、私たち自身が積極的にボランティア活動に参加し、手作りのチラシなどを作って、各家庭に配ったりして私たちの思いを伝えることも重要だと思ふ。

子どもタイムズ

コロナが収束したら 桜井えみ=16



(福岡県福津市・高校生)

私が住む福岡県福津市は、福岡市と北九州市の真ん中に位置している。仕事で行き来する人にはとても便利でベッドタウンとも呼ばれている人気の市だ。一方でひとり暮らしの高齢者が増加している。人と関わることが少なくなると孤立化が進み、健康が損なわれる。私たちに何ができるだろう。

孤立化を防ぐために、地域で子どもと触れ合えるイベントを開催するのはどうだろう。引きこもって運動不足にならないようにウォーキングイベントへの参加を呼びかけたい。しかし今はコロナがついて回る。高齢者のことを思うとなおさらイベントなど開催できない。コロナが収束したとき、私は福津市がさらにいい市になるよう貢献できる人になりたい。



コミュニティスクール
福津立福間中学校
学校通信(13)
文責 教頭 今橋
2021.5.31

令和3年度全国学力・学習状況調査

この調査は、小6と中3を対象に、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」(文部科学省)という目的で実施されています。本年度は、国語と数学において、身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるような場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関する問題と、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等を調査する質問紙調査が実施されました。

